Save the Children

子ども参加のための９つの基本的要件

意味のある、倫理的な子どもの参加のために



はじめに

子どもの権利は、今や世界に広く普及しています。子どもの権利条約（国連児童の権利条約）は、人権を守る法的手段として、国連加盟国のほぼすべてに受け入れられており、批准をしていない国は1ヶ国のみとなっています。

子どもの権利がこれほどまでに世界に広がったのは、31年前にはじめて子どもの人権を法的手段として掲げた国際社会の考え方が、支持されてきた結果と言えるでしょう。

その一方で、私たちの社会では、子どもたちは未だ多くの課題に直面しており、子どもが権利の主体と認められるには至っていません。その中でも「参加」は主要な課題のひとつとなっています。

大人によって、あるいは制度上、子どもの声に耳を傾けることが軽視されています。新型コロナウイルス感染症下の意思決定プロセスに子どもの声がほぼ欠けている状況も目にしてきました。

子どもたちが自分の気持ち、恐れ、期待、あるいは提案について聴かれる機会が限られているのも、取り組むべき課題が残っていることを示しています。

子どもたちが積極的に社会の一員となるためには、往々にして大人の論理と視点に基づいて策定される意見表明のための様式や形式を見直す必要があります。年齢や発達レベルに合わせた表現や、子どもに適した形式に重きを置けば、子どもたちも社会に参加できるようになるでしょう。

そのためには、子どもの存在を軽視し、子どもの参加を妨げている社会の先入観に目をむけ、そこから自由になる必要があります。

ここで紹介する「子ども参加のための9つの基本的要件」は、私たちの行動や、子どもが対象となっている様々な意思決定のプロセスを導き、子ども参加に適した環境づくりに役立つ指針です。

大人も学んでいかなければなりません。ぜひ一読して、日々の生活や活動に活かしてください。子ども参加が実現すれば、先入観のない子どもの斬新な考え方から社会が得られるものがあると信じていますし、子どもたちも自らそれを示してくれています。

ルイス・ペデルネラ

国連子どもの権利委員会委員長※

※訳注：2022年現在、同権利委員会の委員長として大谷美紀子氏が就任している。



イントロダクション

子ども参加とは、「…子どもとおとなの間の、相互の尊重にもとづいた情報共有および対話を含み、かつ、自分の意見とおとなの意見がどのように考慮されてプロセスの結果を左右するのかを子どもたちが学びうる、継続的プロセス」[1]です。



子どもの権利条約第12条「意見を聴かれる子どもの権利」は、子ども参加を支える理念です。また、意見を聴かれる権利は、子どもの権利条約の4つの基本原則の1つとして、条約に掲げられた他のすべての権利とつながり、かつ切り離せない関係にあります。さらに、子どもにとって意味のある参加とは何かを明確に示す条文が他にもあり、いずれも第12条と結びついています。このような市民的権利は、「参加」という言葉のもと幅広い概念となり、そこには表現の自由、思想・良心の自由、信教の自由、結社の自由、平和的な集会の自由、プライバシーの保護および情報アクセスの自由などの権利が含まれます（子どもの権利条約第13条～第17条）。さらに第23条は、障害のある子どもたちが地域社会に積極的に参加できるように条件を整えることの重要性を掲げています。また、第29条は、平和、寛容、平等を推進する自由な社会において、子どもが責任のある生活を送れるような教育を奨励しています。

セーブ・ザ・チルドレンは、子ども参加は単なる活動やイベントではなく、私たちの組織的行動を導く基本原則であると考えています。子ども参加は、私たちの組織のあらゆる側面に浸透している横断的なテーマです。また、子どもの立ち位置を強化し、国際社会の子どもの扱いに突破口をもたらすという、私たちが掲げる目的の中心をなすものです。子ども参加は実現すべき市民権であり、適用されるべき原則であり、他の権利を実現するための手段ともなりえます。重要なのは、子ども参加を推進し、支援することにより、人権に関する義務が果たされ、子どもとその権利の尊重につながるということです。

2000年から2006年、「国連子ども特別総会」と「子どもに対する暴力に関する国連調査」という2つの重要なプロセスにおいて、セーブ・ザ・チルドレンは子ども参加を後押ししてきました。このプロセスでは、子どもたちは地域社会、国内、域内および国際レベルで様々な場に参加し、自分たちの経験や提言を共有しました。また、このプロセスがあってこそ、歴史上初めて子どもによる国連総会での演説が行われ、未だ存在する子どもに対する暴力を（子どもと共に）根絶するための国内、域内、国際的なメカニズムが確立されたのです。私たちが時間と資金、人的資源を投じて子ども参加を支援する体制について自己評価を実施したのも、このプロセスにおいてでした。子どもたちとの協働を通じて得られた大切な気づきをもとに、2005年に「子ども参加に関する7つの実践基準」を策定しました。この「7つの実践基準」を土台として、2009年には「子どもの権利条約第12条に関する一般的意見（CRC/C/GC/12）」に、９つの「意見を聴かれる子どもの権利を実施するための基本的要件」が盛り込まれました。

この「意味のある、倫理的な子ども参加のための９つの基本的要件は、「子どもの声が聴かれ、子どもが参加するすべてのプロセス」[2]において、質の高い子ども参加を確保する手段となっています。私たちが世界各地で実施する事業、アドボカシー活動、キャンペーンの質の向上にも活用されています。また、この要件は、子どもの声が確実に聴かれ、尊重されているか確認する手段でもあると同時に、国際社会で広く認められた子どものための独立機関として、私たちが果たすべき責任を明確に示すものでもあります。

1　国連子どもの権利委員会　第12条に関する一般的意見　CRC/C/GC/12、2009年7月、第3パラグラフ
2　同上、第134パラグラフ

Save the Children

1

要件１
透明性があり、十分な情報がある



要件１が満たされた基本的な状態

子どもには意見を表明する権利があり、その意見が聴かれ、尊重されるということを、子どもが明確に理解しています。子どもは、なぜ自分がこの活動やプロジェクト、プログラムに関わっているのか、参加することでどういう成果がもたらされるのか、また自分の意見や参加がどのような決定や計画に影響を及ぼすのかを把握しています。関わっている活動、プロジェクト、プログラム、組織、主要な用語の意味、参加のプロセスなどを理解するために役立つ情報や必要な支援などにアクセスもできます。また、子どもは具体的に自分に何が求められ、共有した情報がどう扱われるのか、誰がその情報にアクセスできるのかを理解しています。さらに、質問をし、説明を求め、懸念やアイデア、提案を自由に述べられると認識しています。

実践における具体例：

- ✓ どのような機会や制約があるかが、子どもとともに明確にされている。
- ✓ 子どもの役割と責任が明確にされている。
- ✓ 活動を通じて、子ども本人や、本人が関わるコミュニティやプロジェクト、そして他の子どもたちが得られるメリットを子どもが理解している。
- ✓ 子どもにやさしい情報が、適切で理解しやすい言葉や形式で提供されている。
- ✓ 子どもにやさしい情報が、タイムリーに提供されている。
- ✓ 子どもにとって意味のある参加を実現する方針と手順が、子どもの目から見てわかりやすい。
- ✓ 子どもの意見が、意思決定や計画にタイムリーに影響を与え、方向性を示すものとなり、参考とされている。
- ✓ ファシリテーターが子どもに対して誠実でオープンである。
- ✓ ファシリテーターが子どもを誘導したり、利用するなどしない。
- ✓ 子どもが希望すれば、自由に質問をし、追加の情報を得る手段を持っている。
- ✓ ファシリテーターが予期せぬ変化や課題に適応・対応しており、子どもとともに選択肢を模索している。
- ✓ 問題解決が子どもとともに行われている。

2



要件２
任意である

要件２が満たされた基本的な状態

子どもは、自分に与えられた選択肢とその意味、そしてそのプロセスに関わるか否か、またどう関わるか判断するための十分な情報を持っています。自分の選択がもたらす影響をきちんと理解し、それに基づいて参加するかどうか自由に決められます。子ども支援に関わる大人は、必要とされる能力・資質を備えており、子どもに対して、特に脆弱な立場に置かれている子どもに対して、参加を強制することはありません。子どもは、いつでも参加のプロセスから離脱できることも認識しており、その手段も把握しています。参加のプロセス全体を通じて、子どもの選択を尊重する文化を浸透させていくことが求められます。

実践における具体例：

- ✓ 子どもが（直接的であれ、間接的であれ）参加するよう圧力をかけられていない。
- ✓ ファシリテーターが、大人と子どもの力の不均衡に適切に対応しており、子どもにとって真に自主的なプロセスとなっている。
- ✓ 子どもが十分な情報を与えられ、かつ自分の貢献がどのように共有されるか把握した上で、子どもの同意を得ている。
- ✓ 子どもが子ども参加の原則（例：9つの基本要件）を理解している。
- ✓ 子どもがいつでも参加を取りやめられると認識しており、その方法も知っている。
- ✓ 子どもが情報に基づいた選択をする上で、十分かつ適切な情報と時間を得ている。
- ✓ 自分の選択の意味について子ども本人が理解している。
- ✓ 子どもがプロジェクト／プログラム／活動の目的と性質、およびそれにおける自分の役割について、いつであっても知識に基づいた選択をすることができるよう、十分な量の知識を有している。
- ✓ ファシリテーターが、子どもからの同意や秘密保持を含め、参加に関する明確な方針を有している。
- ✓ ファシリテーターが、圧力によってなされた承諾は同意ではないことを認識している。
- ✓ 子どもやファシリテーター、大人の養育者が、オンライン上における課題やリスク、その軽減策について把握している。

3

要件３
尊重される





要件3が満たされた基本的な状態

子どもの意見は、大人や他の子どもたちから敬意をもって扱われています。子どもが大人の許可を得ることなく、自発的にアイデアを提起し、自分の意見を表現できるような組織文化が、子ども支援に関わる大人によって作られています。子どもの意見に耳が傾けられ、その声は尊重されます。子どもは、差別を恐れずに自分の意見を述べることができます。子どもが尊重されることにより、子ども本人やその意見を損なうことのない行動や思考の様式、文化が醸成されるほか、子どもが育ってきた背景や経験、懸念や脆弱性、子どもが今持っている責任（学校や家庭での役割など）への配慮もなされるようになります。同様に、子どもが尊重されれば、子どもたちの自尊心が傷つけられたり、危険にさらされることもなくなります。また、尊重があれば、子どもに対して思いやりと配慮のある態度を促す温かい環境が作られます。

実践における具体例：

- ✓ 子どもが自由に意見を述べることができている。
- ✓ 子どもが自信を持って意見やアイデア、気づきを共有することができている。
- ✓ 効果的なファシリテーションにより、子どもが屈辱を受けたり、恐れから発言ができなかったり、差別を受けたりすることがない。
- ✓ 効果的なファシリテーションにより、文化やジェンダーに配慮したやり方が実践されている。
- ✓ 子どもの他の責任や権利（学校、仕事、余暇活動など）に配慮がされている。
- ✓ ファシリテーターが、丁寧かつ思いやりを持って子どもに接している。
- ✓ ファシリテーターが（対面とリモートの両方の場で）効果的な聴くスキルを持っている。
- ✓ ファシリテーターが、対話を支配したり、自分の価値観や意見を子どもに押し付けたりしない。
- ✓ （保護者、教員など）主要な立場にある大人が協力的である。
- ✓ ファシリテーターが、一緒に活動する子どもの置かれた環境、社会経済的な側面や環境および文化的背景をしっかりと理解し、それに応じて必要な支援を明確にしている。
- ✓ 子どもが作成した文書、データ、成果物が、適切に保管されている。
- ✓ 子どもが、大人の思惑によって利用されたり、操られたりしていない。
- ✓ 子どもが、仲間や他の子どもたちと、敬意を持って包摂的にコミュニケーションできるようにサポートされている。
- ✓ 子どもが、他の子どものプライバシーや個人的な境界を尊重することの重要性を理解している。

4



要件４
子どもの生活に関連している

要件4が満たされた基本的な状態

子どもが自らの経験と知識、また能力を生かした専門性を発揮しながら、自分たちの生活に関わる重要な問題について、意見を述べることができます。子どもに対して適切な情報が提供され、子どもはその情報に容易にアクセスできます。子どもは、ある課題に自分がどのように関わり、なぜ自分の意見や専門性が求められるのかも理解しています。議論、研究、コンサルテーション、会議に対する自分たちの貢献が、特定の課題に対応する上で、その計画にどのように反映されるかも十分に理解しています。参加に際し、子どもが持つ期待に対して（参加している活動の範囲でできることやできないことがあることを明確にするなど）説明や対応がなされ、子どもは参加することの意義と限界のいずれも理解しています。また、子どもは自分に関わりがあり、自らが適切で重要と考える課題を特定する機会が与えられます。

実践における具体例：

- ✓ 内容や機会が、参加する子どもの生活に関連がある。
- ✓ 子ども本人が、関連があると思える問題を自ら特定し、提起するように奨励されている。
- ✓ 議論や調査、協議、プロセスに参加している理由を、子ども本人が明確に理解している。
- ✓ 自分の意見がプロセスにどのような価値をもたらすかを子ども本人が理解している。
- ✓ 効果的なファシリテーションにより、すべての子どもがそのプロセスや活動に参加することができている。
- ✓ 計画の過程において、文化的な要素も踏まえた慎重な検討がなされている。
- ✓ 子どもが、その年齢、能力、状況に適した方法で参加することができている。
- ✓ 言語への配慮がなされ、コミュニケーションの障壁を解消するための措置がとられている。
- ✓ 子どもが、自分が影響を与えられることと与えられないことを明確に把握しており、子どもの期待に適切に対応できている。
- ✓ プログラムやプロセスに対する予期せぬ変更は、配慮を持って子どもに伝えられている。
- ✓ 子どもが、十分かつ子どもにやさしい情報にアクセスできており、どのような方法・形で参加したいか、何が自分にとって大事な課題なのかを適切に判断できている。
- ✓ 参画の方法、情報共有のあり方や遠隔での参加のオプションについて、子どもと一緒に検討し、必要に応じて見直しや調整が行われている。

5



要件５
子どもにやさしい

要件5が満たされた基本的な状態

子どもは歓迎されていると感じています。子ども支援に関わる大人は接しやすく、子どもに向き合う態度を示しています。作業の方法は子どもに対して差別的ではなく、発達段階によって変化する子どもの能力や年齢や多様性に対応した参加の方法が採られています。子どもは自由に質問をし、不安を口にすることもできます。子どもが自信を持って発言し、意見を共有できる手法、自己表現を促す手法が用いられています。十分な時間や情報、資料が提供されており、かつそのことが効果的に子どもに伝わっており、子どもの意味ある参加が円滑に進められています。自分の貢献が尊重され、意図された目的に活用されると子どもも実感しています。

実践における具体例：

- ✓ 方法やアプローチが子どもに適している。
- ✓ 集合場所と時間帯が子どもに適しており、アクセスもしやすい。
- ✓ 事前に子ども、また保護者や養育者に対して、関連した情報が、子どもにやさしい形で提供されている。
- ✓ イベントや集まり、活動が実施される前に、同意が得られている。
- ✓ 子どもにやさしい情報やコミュニケーションのための資料や方法が、子どもによって、あるいは子どもと共に作成されている。
- ✓ ファシリテーターが、子どもをリラックスさせ、自己肯定感と自信を持たせる能力を備えている。
- ✓ ファシリテーターが、有能で、子どもにやさしい、包摂的な幅広い手法について理解している。
- ✓ ファシリテーターが、臨機応変に柔軟に対応できている。
- ✓ 提案された活動に十分な時間が割り当てられている。
- ✓ 社会的に弱い立場に置かれた子どもを含むすべての子どもに対して、参加する場や環境を整える努力が尽くされている。
- ✓ リモートやオンライン環境へのアクセスと利用についての指示が子どもにとってわかりやすい。
- ✓ 子どもにとって一番参加しやすい場や環境を、子どもと一緒に決めている。
- ✓ 参加する場や環境に問題がないか、子どもとファシリテーターが継続的に評価し、必要に応じて調整をしている。

6



要件６
包摂的（インクルーシブ）である

要件6が満たされた基本的な状態

子どもが必ずしも均質的な集団に属してはいないという認識のもとに、子ども参加は包摂性を促し、子どもを一人の個人として扱います。参加のプロセスにおいて、子どもは誰一人として差別されません。今ある差別の傾向、力の不均衡、文化的な違いが配慮されています。参加の方法、アプローチ、言語、取り決めによって、社会で最も弱い立場に置かれた子どもが排除されないように留意されています。子どもの能力によって差別せず、どのような理由があっても子どもを侮辱しません。参加のプロセスでは、すべての子どもが価値ある存在として尊重され、大切にされていることが確実にわかるようにします。.

実践における具体例：

- ✓ 子どもが年齢、ジェンダー、人種、肌の色、性別、言語、宗教、政治的またその他の信条、国籍、民族あるいは社会的な背景、富、障害、その他の地位によって差別されていない。
- ✓ あらゆるジェンダー、年齢、社会的な背景や能力の子どもが参加できている。
- ✓ 年齢に応じて子どもにとって安全な場が用意されており、自分に関連する課題について探究できている（例：必要に応じて、少女は少年とは別に活動等を行う）。
- ✓ 差別と不平等による影響が最も大きい子どもが排除されておらず、その声が聴かれ、また大事にされている。
- ✓ 一人ひとりの子どものニーズ、期待、事情に応じて、参加の形式に柔軟性がある。
- ✓ 参加が、今ある差別の傾向に対抗し、対処するものとなっている。
- ✓ 方法やファシリテーション手法が、子どもを差別せず、アクセスが容易で平等なものとなっている。
- ✓ 特に社会的に弱い立場に置かれた子どもに適した環境と時間帯で集まる努力が行われており、個別のニーズが考慮されている（例：障害に配慮した交通手段や場所）。
- ✓ 包摂的な参加の実現に向けた、課題の解決や創造的な選択肢の検討に子どもが参加している。
- ✓ 質の高い参加に向けた戦略を策定するために、障害のある子どもや関連する団体とのパートナーシップが模索されている、あるいは実現されている。
- ✓ 子どもにやさしい情報にアクセスしやすく、またそうした情報には音声、大きな活字、イラスト、手話が含まれている。
- ✓ 子どもの意見を聴くためのあらゆる努力に際しては、必ず障害のある子どもやマイノリティの子ども、女児など社会的に弱い立場に置かれた子どもの声が聴かれるようにする。

7

要件７
訓練による
支援がある



要件7が満たされた基本的な状態

子どもと関わるファシリテーターは全員、子どもに効果的に対応するための訓練を受け、そのための技能を身につけています。子どもと接するファシリテーターは、具体的なスキルとして優れたコミュニケーション能力、ファシリテーションスキル、分析力を備えています。子どもは、子どもの権利、アドボカシー、メディアとのコミュニケーション、意思決定者に対する責任の追求、会議の企画運営やファシリテーション、研究の企画・実践などの訓練を受けることができます。

実践における具体例：

- ✓ 子どもと関わるすべてのファシリテーターが、子ども参加のプロセスを有意義なものにするための自信、スキル、サポート体制を備えている。
- ✓ 子どもと関わるファシリテーターが、９つの基本要件を把握しており、なぜ子ども参加が重要かについて理解している。
- ✓ 子ども参加の質を継続的に向上させるための、学びと発展の計画が策定されている。
- ✓ 学び、知識、スキルの向上を図るためのさまざまな公式・非公式な機会が提供されている。
- ✓ ファシリテーターが、重要な文書や関連する資料にアクセスでき、かつそれらに十分な時間を割くことができている。
- ✓ 子どもが適切かつ関連のある訓練を受けることができている。
- ✓ 子どもが訓練の共同ファシリテーターを務めている（それが適切かつ可能な場合）。
- ✓ 子どもが知識と専門性を向上させるために、関連する情報や資料、人にアクセスできている。
- ✓ ファシリテーターが、子どもを操作する行為とはどういうものか把握しており、そのための予防措置を講じている。
- ✓ ファシリテーターとサポート要員が良好な人間関係にあり、お互いに敬意と誠実さを持って接している。
- ✓ ファシリテーターが、子どもとの関わりが相手を尊重したものであり、友好的かつ包摂的なものになるよう、リモートやオンライン環境を効果的に活用している。
- ✓ 子ども参加の場やプラットフォームの質を継続的に向上させるために、学びと評価の計画が策定されている。
- ✓ ファシリテーターが、（リモートやオンラインを含む）参加に際してのリスクを、子どもとともに特定し、それに対する対策を立てることができている。

要件８
安全であり、リスクに配慮している



要件8が満たされた基本的な状態

子どもの安全と危害からの保護についてあらゆる考慮がなされているということを、子どもが知っています。子ども支援に関わる大人は、接している子どもに対して責任をもちます。また、子ども支援に関わる大人は、虐待や搾取のほか、子ども参加がきっかけとなって起きる負の影響のリスクを最低限に抑えるために、事前に注意を払い、対策を立てる義務も負います。潜在的なリスクは事前に特定する必要があります。明確なリスク管理計画を整えることで、安全な子ども参加が実践できます。子ども支援に関わる大人は、関連する組織の方針や手順を理解しており、効果的にその手順を実施しています。子ども支援に関わる大人と、コミュニティ／親や養育者／子どもとのコミュニケーションが効果的になされており、参加に対して個々が持つ期待に対し、（何ができるかできないかなどについて）事前の説明や対応がなされ、参加に伴う利点、制約、潜在的リスクが明確にされています。

実践における具体例：

- ✓ 子どもが自らの権利を認識し、必要に応じて助けとサポートを求める方法を知っている。
- ✓ 「害を与えない（Do No Harm）」と「子どもの最善の利益」の原則が適用されている。
- ✓ 対立や衝突を助長しない方策が採られており、また、リスク評価も行われている。
- ✓ 参加型プロセスに関わる子どもが、虐待から守られる権利を認識しており、必要に応じて助けを求める先を知っている。
- ✓ リスクの最小化、虐待防止、子どもが助けを求める際に直面しうる障壁の排除のために、子どものセーフガーディング計画が整っている。
- ✓ 必要に応じて、子どものための心理社会的サポート（あるいはその他の緊急サポート）体制ができている。
- ✓ 子どもとともに、リスクの特定や解決策の策定が行われている。また、子どもがその参画の際に安全だと感じている。
- ✓ 行動規範、子どものセーフガーディング方針・手順に準じた法的、倫理的な責任をファシリテーターが認識している。
- ✓ 参加型活動に関わる子どもが、内々にフィードバックできるような手順が策定されている。
- ✓ 子どもが提供する情報の利用に際しては事前の同意があり、提供された情報は常に守秘義務の対象として守られている。
- ✓ 子どもと保護者、養育者が明示的にその利用について同意をしない限り、子どもの写真、動画、デジタル画像を撮影ないし公開してはならない。
- ✓ 法的責任、また安全性、渡航や移動、医療保険に関わる責任の所在が明確にされ、効果的に計画されている。
- ✓ 互いに安全にかつ敬意を持って接する方法について、子どもと基本ルールを定めている。これにはオエライン上の交流、また子ども同士の交流も含まれる。
- ✓ すべての人の安全とプライバシー保護のために、個人情報、動画、写真がどのように共有されるか、あるいは共有されないかについての取り決めがなされてる。
- ✓ オンライン上の安全性について、子どもと保護者・養育者が情報を持っている。



要件９
アカウンタビリティ（説明責任）が果たされる

要件9が満たされた基本的な状態

子どもの貢献が、これまでの進捗に対してどのように助けとなり、知見を提供し、影響を及ぼしたか子ども本人にフィードバックされます。参加は一回限りのイベントではありません。子どもの視点や懸念を聴き、行動変容をおよぼし、提言に影響を与え、継続的に質の向上を図るという一連の努力のすべてにおいて、アカウンタビリティのプロセスが確保されています。子どもは、主要なステークホルダーにアクセスでき、問いを投げかける機会を得られ、参加についてのフィードバックをすることができます。得られた気づきや学びは体系的に書面にまとめられ、質の向上のために活用されます。子どもに対し、タイムリーかつアクセスが可能な形で、適切なフィードバックがなされます。子どもが、フィードバックの内容を他の子どもたちと共有するための十分な時間やサポート、情報があります。特に、その子どもが、他の子どもたちやコミュニティのいずれか、あるいは両方の代表として参加している場合は、他の子どもたちへのフィードバックに要する十分な時間やサポート、情報の提供がなされます。

実践における具体例：

- ✓ 子どもとともに行う、徹底的なモニタリングと評価のプロセスが策定されている。
- ✓ 子どもとともに行う、コミュニケーションとフォローアップの仕組みが明確になっている。
- ✓ 参加した成果が子どもにもわかる。
- ✓ 子どもの意見やこれまでの学びを基に、プログラム策定や方針、決定がなされている。
- ✓ アカウンタビリティの仕組みにおいて、子どもが参加できるようサポートが提供されている。
- ✓ すべての子どもがフィードバックできる機会とプロセスが、多岐にわたって用意されている（コンサルテーションやイベントに参加した子どもに限らない）。
- ✓ 子どもからの問い合わせや懸念、質問に対して、適切で率直かつ透明性が確保された対応がなされている。
- ✓ あらゆる最終報告書や評価の子どもにやさしいバージョンが作られており、子どもが自らの行動やフォローアップのプロセスにどのように生かしていけるかを考えることができる。
- ✓ （オンライン上やリモート環境を含む）あらゆるプロセスにおいて、フィードバックを提供する仕組みがある。
- ✓ 子どもと接する際には、情報にアクセスする子どもの権利、行動を起こす子どもの権利が必ず尊重されている。大人が一方的に子どもから情報を吸い上げることは一切しない。

参照：子ども参加の計画と評価のためのチャート

9 つの基本要件：質の確保	
要件	要件を満たしていますか？
1) 透明性があり、十分な情報がある 下記の取り組みが行われていますか。 • 適切でアクセスしやすい言語と形式で子どもにやさしい情報を提供している。 • 役割と責任、機会と制約を定めている。	**備考・気づき**
2) 任意である 下記の取り組みが行われていますか。 • 子どもが自らの参画について、情報に基づいて判断できる時間が十分にある。 • いつでも子どもが参加を取りやめることができる。 • 真に自主的なプロセスとなるように大人と子どもの力関係を考慮している。	**備考・気づき**
3) 尊重される 下記の取り組みが行われていますか。 • 子どもの他の責任や権利に配慮している（学校、仕事、余暇活動など）。 • 文化とジェンダーに配慮した方法を採っている。 • 主要な大人（保護者、教員など）は協力的で、必要な情報を得ている。	**備考・気づき**
4) 子どもの生活に関連している 下記の取り組みが行われていますか。 • 課題は、参加する子どもの生活に関連がある。 • 子どもが主導する取り組みや内容をサポートしている。 • 大人が子どもにプレッシャーを与えていない。	**備考・気づき**

9 つの基本要件：質の確保	
要件	要件を満たしていますか？
5) 子どもにやさしい 下記の取り組みが行われていますか。 • 子どもにやさしい手法やアプローチが実践されている。 • 集まる場が子どもにやさしい環境で、アクセスしやすい。	**備考・気づき**
6) 包摂的（インクルーシブ）である 下記の取り組みが行われていますか。 • 多様なジェンダー、年齢、背景、能力の子どもが参画している。 • 異なる子どものグループが、自分たちに関連のある内容について取り組める安全な場を提供している（例：必要に応じて男女別）。 • プロセスに差別がなく、包摂的である。 • 差別と不平等による影響を最も大きく受けている子どもに平等なアクセスがある。 • 手法やツールがアクセスしやすく、平等なアクセスが推進されている。	**備考・気づき**
7) 訓練による支援がある 下記の取り組みが行われていますか。 • 子ども支援に関わる大人や関係者が、子ども参加のプロセスを円滑に進める自信と技能を備えている。	**備考・気づき**
8) 安全であり、リスクに配慮している 下記の取り組みが行われていますか。 • 対立を助長しない方法が採られ、リスク評価が実施されている。 • 子どものセーフガーディング計画が策定されている。 • すべての子どもが、必要があれば、助けを求める先を知っている。	**備考・気づき**

9つの基本要件：質の確保	
要件	要件を満たしていますか？
9) アカウンタビリティ（説明責任）が果たされる 下記の取り組みが行われていますか。 • モニタリングと評価の戦略が策定されている。 • 子どもがモニタリングと評価のプロセスに参画している。 • 子どもとともに、コミュニケーションとフォローアップの仕組みを定めている。 • 子どもが、自分の参加の成果を把握できるようになっている。	**備考・気づき**

メモ:



参考資料

国連子どもの権利委員会　一般的意見12：意見を聞かれる子どもの権利　CRC/C/GC/12 2009年7月
原文：https://www2.ohchr.org/english/bodies/crc/docs/AdvanceVersions/CRC-C-GC-12.pdf
日本語訳：https://www.nichibenren.or.jp/library/ja/kokusai/humanrights_library/treaty/data/child_gc_ja_12.pdf

セーブ・ザ・チルドレン（2005）”Practice Standards in Children’s Participation（子どもの参加の実践基準）”
国際セーブ・ザ・チルドレン・アライアンス（ロンドン）を代表して、セーブ・ザ・チルドレンUK
原文：https://resourcecentre.savethechildren.net/document/practice-standards-childrens-participation/

国連子どもの権利条約(1989)
原文：https://www.ohchr.org/en/professionalinterest/pages/crc.aspx
日本語訳：https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jido/zenbun.html



発行：Save the Children、2021年
日本語訳作成：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
© Save the Children 2021
本資料は、出典を明示することを条件に、政策提言、キャンペーン、教育、研究の目的で無償で利用することができます。
Save the Children